



森田 則子

熱中症対策

問 熱中症の予防に暑熱順化の取組みの推進や、死亡・重症化を防ぐ命を守る取組みを問う。

答 暑熱順化を含めた熱中症対策を、町ホームページ等で、住民へ向け情報発信を行っていく。

問 救急搬送者の83%が高齢者であり、発生場所は室内が約7割となっている。エアコン使用の推進について、また、高齢者の熱中症対策として、福祉・介護・医療との連携をどう取り組むのか。

答 エアコン使用などの予防策を地域コミュニティによる見守りや声かけ等で周知していきたい。

- ① 住民の命を守る熱中症対策
- ② 体育館の空調設備(エアコン)の整備
- ③ 憩いの広場に遊具を設置

今後の福祉・介護・医療の連携については、定期的な会議の場で対策を協議して行く。

体育館の空調設備の整備

答 国の空調設備整備臨時交付金を活用して設置できるように、配画計画など具体的に検討し、設計に向けて準備を進めて行く。



憩いの広場に遊具を設置

問 憩いの広場の設計にあたり、特に子育て世代から遊具の設置について強い要望がある。今、注目されている障害の有無に関わらずあらゆる人が一緒に遊べるインクルーシブ遊具の設置を提案するが見解を問う。

答 広場への遊具については予算を踏まえ、インクルーシブ遊具を検討する。遊具も何もないという公園にはならないと考えている。

一般質問



川口 省子

- ① ドクターヘリ運用の課題
- ② AEDのフル活用
- ③ 町民一人ひとりの救命救急に対する意識向上

問 救命救急の救世主ともいえるドクターヘリのヘリポートの課題は。

答 現在2カ所のヘリポートで運用。町域の広さを考慮すると、新たなヘリポートが確保できればより望ましい。

問 約10年前の定例会議で、もう1カ所ヘリポートを検討する旨の答弁があったが、未だ確定していないことをどのように考えているか。

答 引き続き町の資産も含め検討を進めたい。

問 本町内のAED設置状況を問う。

答 公共施設、民間の施設等、26カ所の設置を確認している。

候や夜間には出動できない。その代替策として役立つのが、AEDになるのではないかと。

答 AEDの重要性は当然認識している。

問 119番通報からすぐに救急車到着の地域と、15分以上かかる地域との時間差を考慮して、時間を要する自治区にAEDを本町から提供し、初期対応してもらうようにしてはどうか。

答 その地域だけというのは難しい。協働事業交付金や自主防災組織設置補助金30万円などの活用を周知していく。

問 実用性を持ってAEDを活用するため、ケース内に胸部を覆う三角巾

の配備を要望する。

答 費用がかかることであり、検討していきたい。

問 町民の意識向上には、まず、AEDの設置場所の見える化、周知徹底をすべきではないか。

答 ホームページやLINEで早急に周知を図りたい。

問 救急救命の講習会は各自自治区に出向き開催してもらいたい。

答 今年度東地域で、救命措置、AEDの使い方等について講習会を考えている。

